



令和5年度 7月

人権一口講座



人権一口講座

「不登校児童らの自立支援から繋がるものは…」

不登校の小中学生が、令和4年度は24万人を超えたそうです。

高校でも生徒5万人が不登校で、いずれも過去最多になったようです。

先日、「不登校生徒の自立支援」に取り組まれている高校の校長先生の講話を聞きました。

その学校の座右の教育論は「共にいる」「いいんだよ」の言葉を用いて、「不登校生徒の自立支援・心の癒し」に重点を置いた教育実践に心血を注がれているそうです。その教育方針に心の拠り所を求める子供たちや親御さんからは多大に支持されています。

聞いたその講話の中で、時間が守れない生徒の話がありました。皆さんも感じた事があるかも知れませんが、時間が守れなかったことで社会生活をしていく上で困ったことに遭ったことはありませんか？ 話に登場したその生徒は学習障害を持っていて、時計の長針と短針で時間を表す仕組みが認識できなかったそうです。しかし、針で時間を表すことだけにとらわれずに「アナログ時計とデジタル時計を並べて設置」すると、時間が守れるようになったそうです。

その取り組みを知った方でしょつか、同じような学習障害を持つ別の生徒と保護者が、公立学校に「デジタルの腕時計を持たせていいですか？」と交渉したところ、「その子だけデジタルの腕時計を認めるのは【平等】ではない！」と断られたそうです。

「特性を理解し対応を変えれば【公平】になるのに…だから、一定の範囲に入っていない子どもたちの居心地が悪くなり不登校になっていくことがあるんだ」と知ったのです。

また「一致団結」の考えもこの高校では求めておられず、それぞれの個性が発揮できるように様々な方策を講じておられました。

「同じであること・違っていること、共に同じように尊い」「これは学校の中だけに限らず、大人の社会でも広がって欲しい考え方はです。

互いの自由を尊重しあう感覚を持ち、多様性が本当に認められ、異質だからと排除する風潮を無くすと、もっと暮らしやすい社会になると思います。

「それは大人の引きこもり、二つ問題にも繋がる事なのでは…」私は講話を聞きながら、そう思ったことでした。

(令和5年度広報誌かけはし7月号より)



短いメッセージ みんなの夢を聞いて 応援したくなったよ
ぼくの夢も みんなの夢も 叶ってほしい

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 植木小学校 6年 谷口仁清さんの作品より